

租税史料室年報（令和2年度）

1 租税史料室の概要

租税史料室は、昭和43年に「全国に散在する租税に関する貴重な資料を確保し、かつ、その集中管理を行ない租税制度の研究等に資する」ことを目的に設立されました。

収集する史料は、税務行政に関する文書だけでなく、図書、写真、器具など人々の暮らしと関わりのある税の史料など多岐にわたります。

収集した史料は、展示室での展示や閲覧を通じ広く公開するとともに、租税史料室で研究の資としています。

2 活動状況

(1) 史料の収集

令和2年度は、個人・法人の方からの寄贈を中心に、約1,000点の史料を収集しました。

なお、寄贈された史料の中から、特に貴重と認められる史料を寄贈していただいた4名に国税庁長官感謝状を贈呈して感謝の意を表しました。

【主な収集史料】

- 1 仙台税務監督局の機関誌『会報』『財務之友』『東北財務』
 - ① 明治36年に創刊された仙台税務監督局の機関誌『会報』
 - ② 明治40年9月に同誌が改称した『財務之友』
 - ③ 大正3年より東北財務協会が刊行した機関誌『東北財務』



『会報』と『財務之友』は初収集であり、巻数の欠損が少なく史料群として充実している。とりわけ『会報』は、全国の監督局機関誌のなかでも比較的早い段階で刊行されたものである。

2 大正7年 大蔵省税務講習会講義録



直接受講した者以外の研鑽に資するため頒布されたものである。
大正年間の大蔵省税務講習会についての講義録は初収集である。

3 明治40～42年 松江税務監督局の絵はがき等

戦前の庁舎の絵はがきが10局署分寄贈されたが、そのうち松江税務監督局・鯉沢署・瀬戸署が初収集である。日本統治時代の税務署の絵はがきもあり、貴重な史料である。

4 三重県の市街地券

三重県の市街地券は初収集である。津藩の城下町である津と上野町、それに伊勢神宮外宮の鳥居前町のものである。

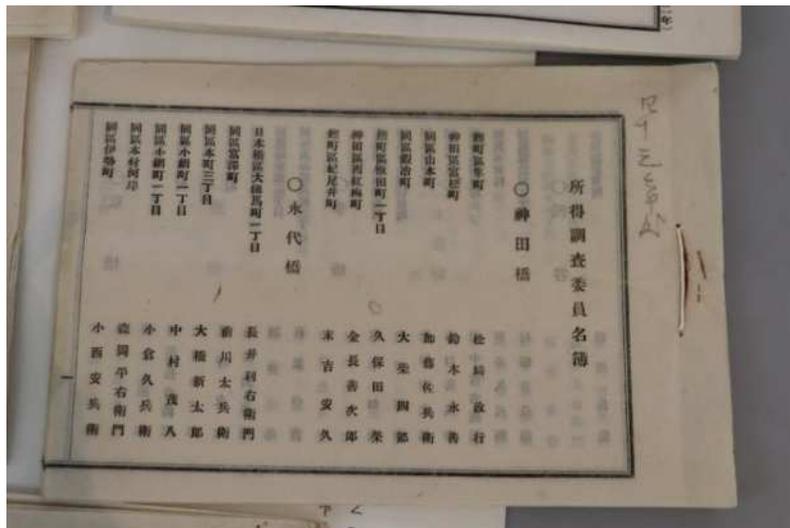
また、京都府の市街地券の写もある。京都府の市街地券の実物は発見されていないし、譲渡証文もあるので、写でも貴重である。

5 名古屋局の国税相談所の機関紙『納税の友』

名古屋局の国税相談所の機関紙『納税の友』が初めて収集された。



6 明治 42～45 年の東京局の所得調査委員名簿



甲府税務署管内の所得調査委員の史料である。

明治 42～45 年までの 5 点の所得調査委員名簿は、東京税務監督局管内の所得調査委員を網羅する貴重な史料である。明治 42 年は局署の統廃合により調査委員の定数が改正されたため、改正前と後の 2 冊作成されている。

7 納税貯金箱



納税貯蓄組合の会長だった方（寄贈者の祖父）が保存していた実際に使用された納税貯金箱である。納税貯蓄組合の歴史を知るうえで非常に重要な史料である。

(2) 所蔵史料の公開

イ 展示（常設展示、特別展示）

租税史料室では、①常設展示及び②期間を定めた特別展示を行っております。

常設展示では、「国税の歴史」をテーマに江戸時代から現代までの史料を展示しています。

また、特別展示として、令和元年 10 月から令和 2 年 9 月までは、「暮らしの変化と税」をテーマに開催し、令和 2 年 10 月から令和 3 年 9 月までは、「審査請求制度の変遷」をテーマ

に開催しています。

□ 閲覧

収集した史料は、管理システムに登録し、一般の方々の閲覧の用に供しています。